

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

1

マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



McLaren
Manufactured under licence from
McLaren Racing Limited.

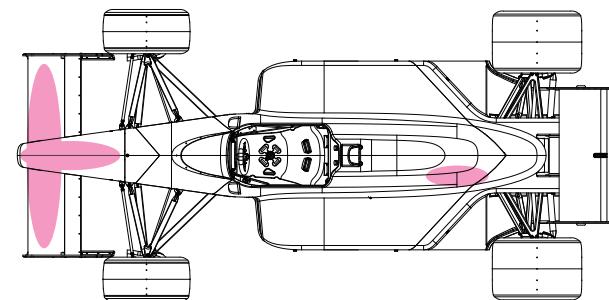
HONDA
Official Licensed Product

KYOSHO
THE FINEST RADIO CONTROL MODELS

DeAgostini
COLLECTIBLES

Mission 01 フロントウイングを組み立てる ①

組み立てスタートとなる今号では、F1マシンの顔となるフロントウイング部分から組み立てていく。まずノーズ(上)にフロントウイングを装着し、次に上下に分割されたノーズコーンを組み立てる。最後にカムカバー(左)にホンダロゴプレート



今号のパーツ

① ホンダロゴプレート



② カムカバー (左) ダイキャスト製



⑦ プラスチック用接着剤



③ ノーズコーン(下)

④ ノーズ(上) ABS製

⑤ ノーズコーン(上)

⑥ フロントウイング ABS製



⑧ 紙やすり(600番)



※①③⑤はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

・⑦ プラスチック用接着剤
今号で提供する多用途瞬間接着剤は、HIPS(スチロール樹脂)とABSの両方を接着できる。使用後はキャップをして、低温・低湿の場所で保管しておこう。



- ・カッター
- ・つまようじ
- ・マスキングテープ
- ・はさみ

ポイント

仮組みでミスを防ぐ

●各パーツは接着する前に1度組み合わせて、完成形をイメージしておく。それぞれのパーツの接着面や、できあがりの状態を理解しておくことで、組み立てミスを防止できる。

接着剤について

●今号で提供した「多用途瞬間接着剤」を使い切った後は、パーツの材質に合わせて「プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤」や「ABS用接着剤」などが必要になる(シリーズガイド9ページ参照)。

※本シリーズでは、主に「プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤」を使用して接着作業を行う。今号で提供の「多用途瞬間接着剤」を6号まで使用することができれば、「ABS用接着剤」はシリーズの後半まで必要ない。



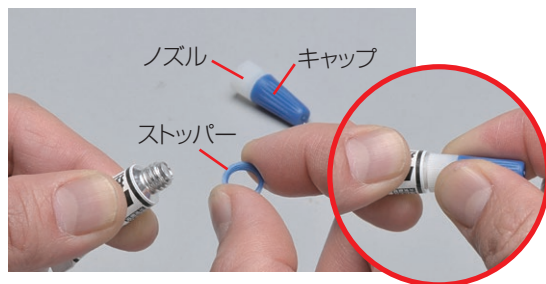
フロントウイングとノーズは、F1マシンの顔と言える部分だ。本モデルのノーズには、セナのカーナンバー12やホンダとシェルの大きなロゴだけでなく、グッドイヤーとマクラーレンの小さなロゴまでが忠実に再現されている。モデル完成後も、フロントウイングとノーズコーンは、実車と同様に着脱が可能だ。

◀MP4/4のフロント部。

In Focus

1 ノーズ(上)とフロントウイングの接着準備

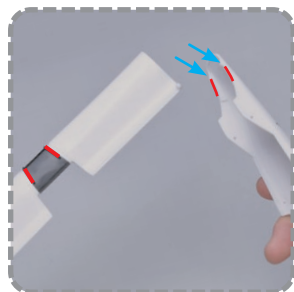
●⑦プラスチック用接着剤のチューブ先端に正しく穴を開ける。まずキャップとノズルをまとめて取り外してから、ストッパーを取り除く。キャップとノズルがしっかり組み合っていることを確認し、再びチューブ本体に回しながら取り付ける。ストッパーがあった位置まで締め込むと、チューブ先端に穴が開く。接着剤を使うときは、キャップのみ取り外す。



■上記の手順通りに正しく穴を開けないと中身が飛び出すことがある。また開封後にキャップを取り外すときも、チューブを強く持つと中身が飛び出すことがあるので注意しよう。

《仮組み》

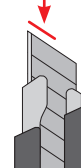
⑥フロントウイング上面にある赤線で示した2つの突起が、④ノーズ(上)の赤線部分の内側に入って組み合わせることを確認しよう。青矢印の小さな突起をフロントウイング前部に引っかけて、青線部分がずれないようにする。確認したら、後の作業のために、6センチ程度のマスキングテープを1本用意しておく。



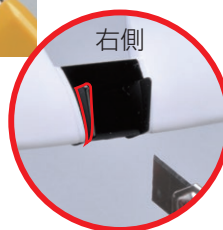
●仮組みで確認した2つの突起の、赤線で囲んだ外側の面の黒い塗装をカッターの刃のない部分で軽く削ってはがし、白い素材面を露出させる。



■カッターのこの部分を使う。



■プラスチック用接着剤は、プラスチックを溶かして一体化させるので、塗装をはがした素材面に塗ると効果が高くなる。



ポイント

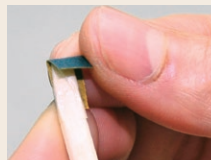
紙やすりで塗装をはがす

カッターを使わずに、今号で提供した⑧紙やすりを使って塗装をはがすこともできる。塗装をはがす箇所の大きさに紙やすりを合わせて、割り箸などに貼って使用する。このテクニックも覚えておこう。

1 割り箸の先端をカッターで斜めに削る。



2



カッターで削った部分に両面テープを貼り、その上に紙やすりを貼りつけて余分な部分は切り取る。

3 紙やすりが摩耗したら、はがして新しいものに取りかえよう。



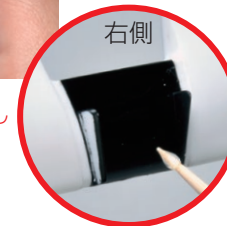
2 ノーズ(上)とフロントウイングを接着する

●フロントウイング上面にある2つの突起の塗装を削った面に、つまようじの先端を使ってプラスチック用接着剤を塗る。

※ABS用接着剤で代用可能。



■接着剤の塗りすぎと、はみ出しに注意!



●接着剤が乾かいうちに①で仮組みしたようにノーズ(上)とフロントウイングを組み合わせ、接着面を指で1分ほどおさえる。



NEXT STEP >>>

●用意したマスキングテープで、写真のように接着部分を固定する。10分ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。



■マスキングテープはノーズ(上)先端のロゴにかけないようにする。

Check



▲完成時イメージ

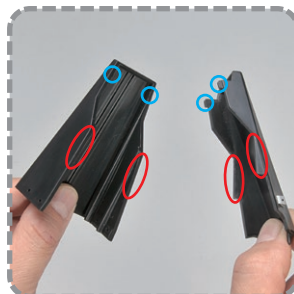
■フロントウイングは水平に装着する。接着時は慎重にバランスを調整しよう。

3

ノーズコーン(上)とノーズコーン(下)を接着する

《仮組み》

⑤ノーズコーン(上)の青丸で示した突起と赤丸で示した三角形の突起が、③ノーズコーン(下)の青丸と赤丸部分の内側にはまって組み合うことを確認する。黄線で示した合わせ目にすき間ができないようにしましょう。確認したら7センチと10センチ程度のマスキングテープを1本ずつ用意する。



●仮組みで確認した4つの突起の赤線で囲んだ外側の面に、つまようじを使ってプラスチック用接着剤を塗る。
※プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤で代用可能。



■これらの突起部分は塗装されていないので、接着面を削らなくてよい。

●仮組みしたようにノーズコーン(上)とノーズコーン(下)を組み合わせ、指で1分ほどおさえる。



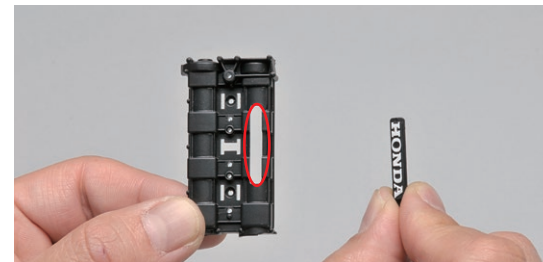
●用意しておいたマスキングテープで、接着部分を写真のように固定する。10分ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。



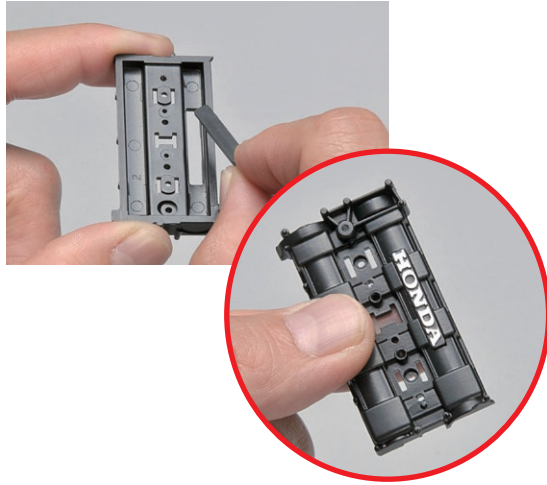
4

カムカバー(左)にホンダロゴプレートを仮留めする

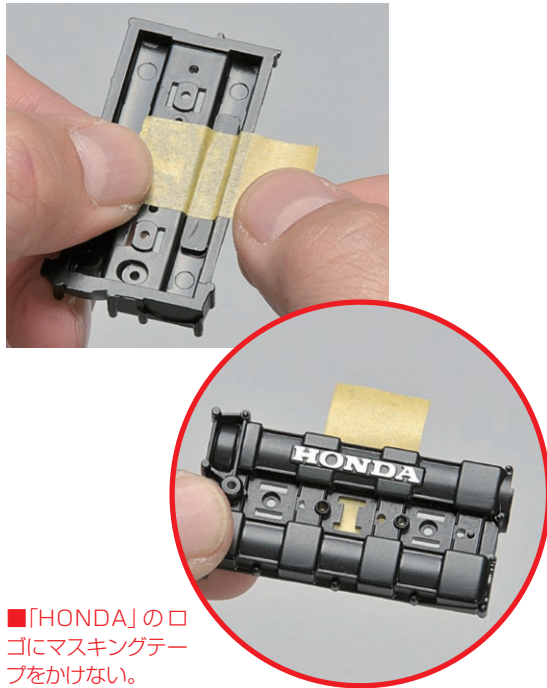
●後の号で接着するまで②カムカバー(左)に①ホンダロゴプレートを仮留めしておく。カムカバー(左)の赤丸で示した穴に、写真の向きでホンダロゴプレートを取り付けるので確認する。確認したら2センチ程度のマスキングテープを1本用意する。



●カムカバー（左）の裏側から、ホンダロゴプレートをはめ込み、指でおさえる。



●用意したマスキングテープで、写真のように仮留めする。



■「HONDA」のロゴにマスキングテープをかけない。

今号の完成

ノーズ(上)にフロントウイングが接着された。上下のパーツが1つになってノーズコーンの主要部ができ上がり、カムカバー(左)にホンダロゴプレートが仮留めされた。完成したこれらのパーツは、再び組み立てで使うときまで、破損や紛失に注意して大切に保管しておこう。



ナビゲーション

今号で組み立てたフロントウイングとノーズコーンは、後の号で合体する。そのときに備えて、組み立ての簡単な確認をしておこう。

1 ノーズコーンの赤丸で示した切り欠き部分で、フロントウイングの青線部分をはさむように組み合わせる。



2 青丸で示した穴は、後の号で重ねてビス留めする。組み合わせたときに穴の位置が一致することを確認する。



3 正しく組み合わせて、できあがりイメージしておこう。

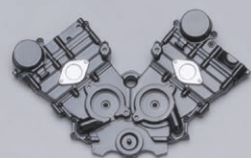
Mission 02 フロントウイングを組み立てる ②

今号は、前号で組み立てたフロントウイングにフロントフラップとフロントウイング翼端板を取り付けて、フロントタイヤにフロントホイールを組み合わせる。本モデルのフロントウイングは左右のフロントフラップの角度が調整できるので、好みに合わせてセッティングしよう。

今号のパーツ



① フロントタイヤ



③ エンジンブロック(前) ダイキャスト製



② フロントホイール ダイキャスト製

⑧ プラスドライバー (00番)



④ フロントウイング翼端板(右) ABS製



⑤ フロントウイング翼端板(左) ABS製



⑥ フロントフラップ(右) ABS製



⑦ フロントフラップ(左) ABS製

⑨ ビスA (1.0 × 4P-M SiL) × 3



⑩ ビスB (1.4 × 4F-M SiL) × 3

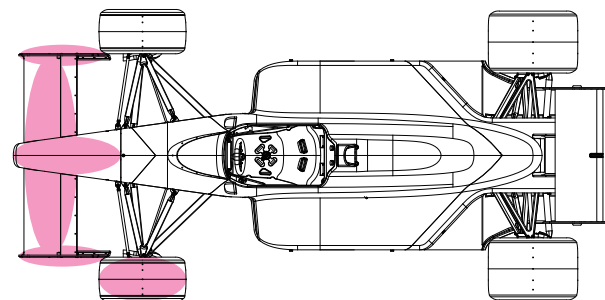


⑪ ビスC (1.4 × 6F-M SiL) × 5



※ビスBとビスCは同じ袋に入っています。短い方がビスBです。

※ビスは予備1本を含む。



今号で使用する道具

- ・ ⑦ プラスドライバー (00番) ※今号で提供
付属のプラスドライバーは、接続して1本にすると使いやすい。ハンドル部の片側はホイールレンチにもなっている。
- ・ マスキングテープ



用意するもの

- ・ フロントウイング ※1号で組み立て

ポイント

ドライバーは正しく使おう

●ドライバーの使い方を誤ると、ビスの頭の溝を壊したり、ビスを正しく締められなかったりすることがある。以下の点に注意してドライバーは正しく使おう。



- ・ ビスを締め込むパーツはしっかり持って動かないようにする。
- ・ ドライバーの先端はビスの頭の溝にしっかりと差し込む。
- ・ ドライバーとビスは一直線にする。
- ・ ドライバーはビスに押しつけながら回す(赤矢印)。
※押す力が6割、回す力が4割程度の配分がよい。



今号でフロントウイングに取り付けるフロントフラップは、取り付け角度を変更することでダウンフォースが調整できる重要な空力パーツだ。本モデルのフロントフラップとフロントウイング翼端板は、グッドイヤーやシェルのロゴといった目立つ部分だけでなく、段差や小さな凹みのような細部まで再現されている。

◀ 1988年の日本GPで鈴鹿サーキットを走るMP4/4。

In Focus

1 フロントウイングにフロントウイング翼端板(左)を仮留めする

●1号で組み立てたフロントウイングを用意する。



●フロントウイングと⑤フロントウイング翼端板(左)の取り付け位置を確認する。フロントウイングとフロントウイング翼端板(左)の黒い面の、同じ色の丸で示した穴同士を合わせて、ビスで留めていく。確認したらフロントウイング翼端板(左)の白い面の赤矢印の穴に⑩ビスC、青矢印の穴に⑪ビスBを差しておく。



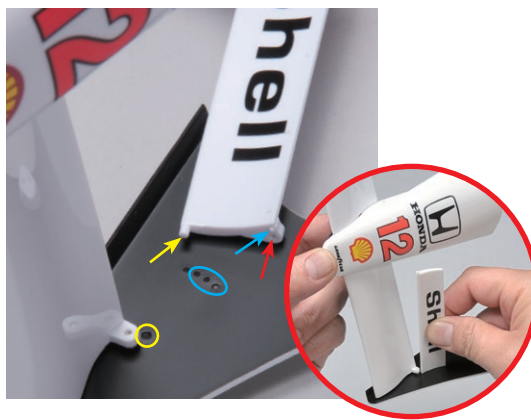
●フロントウイングとフロントウイング翼端板(左)を確認したように組み合わせ、差してあるビスを⑧プラスドライバー(00番)で仮留めする。



■横からネジ山が少し見える程度まで軽く締める。

2 フロントウイングにフロントフラップ(左)を仮留めする

●フロントウイング翼端板(左)の黄丸の穴に、⑦フロントフラップ(左)の黄矢印で示した突起を入れる。次に青矢印で示した位置合わせ用の突起が、青丸で示した3つの穴のいずれかに入ることを確認する。位置合わせ用の突起を入れた穴の1つ下の穴と赤矢印で示した穴が重なり、固定用のビス穴になる。位置合わせ用の突起を入れる穴を変更することで、フロントフラップ(左)の取り付け角度が調整できる。



●フロントウイングの赤丸で示した穴に、フロントフラップ(左)の赤矢印で示した突起を差し込む。



●フロントウイング翼端板を仮留めしている2本のビスを少し締めて、フロントフラップ(左)は外れないが、動かすことはできるようにする。



■ビスの頭の面とフロントウイング翼端板(左)の白い面がそろう程度まで締める。

NEXT STEP >>>

●フロントフラップ(左)の位置合わせ用の突起(青矢印の裏側)を、フロントウイング翼端板(左)の青丸で示した3つの穴のいずれかに入れ、フロントフラップ(左)の取り付け角度を決定する。どの穴を固定用のビス穴にするかを確認しておく。



Check



完成時イメージ▲

■フロントフラップが水平に近づくともロードダウンフォース仕様、角度が付くに従ってハイダウンフォース仕様となる。左右のフロントフラップは同じ角度にする。

3

仮留めしたパーツを固定する

ポイント

小さなビスはドライバーに固定しよう

●ビスAのように細くて短く、ビス穴に差し込みにくいビスは、プラスドライバーの先端にマスキングテープで固定しておくと、ビス留めの作業がしやすくなる。後の号でも使うテクニックなので覚えておこう。



●フロントウイング翼端板(左)の白い面から、確認しておいた固定用のビス穴に④ビスAを差し、プラスドライバー(00番)で締め込む。締め込み過ぎないように、フロントフラップ(左)の固定具合を確認しながら作業しよう。



●フロントウイング翼端板(左)とフロントウイングを仮留めしている2本のビスを、車体前方のビスC→後方のビスBの順に本締めして固定する。



■締め込み過ぎに注意して、固定具合を確認しながら作業する。

4

フロントウイングに フロントウイング翼端板(右)と フロントフラップ(右)を取り付ける

●①~③と同様の作業をして、フロントウイングに④フロントウイング翼端板(右)と⑥フロントフラップ(右)を取り付ける。



5

フロントタイヤに フロントホイールを取り付ける

●①フロントタイヤに②フロントホイールを取り付ける位置を確認する。フロントホイールの赤丸部分にある小さな凹みを、フロントタイヤに赤線で示した「EAGLE」ロゴのGの中心に合わせてはめ込む。タイヤには回転方向(内側と外側)の区別がないので、フロントホイールはどちら側からはめ込んでよい。



● フロントホイールをフロントタイヤに差し込み、フロントホイール両側にある赤線で示した溝にフロントタイヤの内周部をはめ込む。



■ フロントホイールの両側の溝に、フロントタイヤをしっかりとめ込む。

今号の完成

フロントウイングに翼端板とフラップが装着され、フロントタイヤにフロントホイールが取り付けられた。



保管パーツ

③ エンジンブロック(前)と3本のビスC(予備含む)は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



ポイント

パーツの保管について

● 組み立てたパーツの保管にはタッパーやチャック付きのビニール袋が便利だ。ビスは保管用と予備の区別をせず、小さい袋などに名称とサイズを明記して小分けするとよい。その他のパーツは、ティッシュペーパーや緩衝材などで包み、傷がつかないようにして、冷暗所に保管しよう。



ディテールアップ

タイヤのディテールアップ

● タイヤは、トレッド(接地面)へのやすりがけや、全体に半光沢のクリア塗料の吹き付けを施すことで、外観がより実車に近づく。4本のタイヤを同じ質感にするため、詳しいディテールアップの方法は、後の号でタイヤが全て提供されてから紹介する。



PIT IN

ビスについて

頭の形状とねじ山のタイプで見分ける

ビスは長さや太さ、頭の形状やねじ山のタイプによって規格化されている。見分け方を知っておけば、今後ビスの種類が増えたときに判別しやすい。

ねじ山のタイプ	タッピング(Tapping screw)	マシン(Machine screw)
ねじ山のタイプ ビスの頭の形状	ねじ山の間隔(ピッチ)が広い	ねじ山の間隔(ピッチ)が狭い
ナベ頭(Pan head) 中華なべを逆にしたような形		
皿頭(Flat head) 上面が平坦な円錐形		
バインド頭(Bind head) ナベ頭を薄くのぼしたような形		

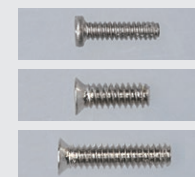
※ 上記以外にもビスの種類はあるが、代表的なものを紹介している。

ビスの表記について

1.0×4P-M SiL

ビスの太さ(mm) → 1.0
ビスの長さ(mm) → 4
ねじ山のタイプ → P (Pan head)
ビスの色 → M (Machine screw)
ねじ山のタイプ → SiL (Silver)

今号のビスを確認しよう



ビスA
1.0×4P-M SiL
ビスB
1.4×4F-M SiL
ビスC
1.4×6F-M SiL